

欧州主要銀行へのストレステスト結果

在欧州センター・事務所、欧州ロシア CIS 課

欧州銀行監督委員会（CEBS）は7月23日、91金融機関の資産査定（ストレステスト）の結果を発表した。2010年から11年にかけて最も悲観的なシナリオとなった場合、7銀行が健全性の目安となる中核的自己資本（Tier1）比率6%を下回るが、全体では9.2%（11年末）と大幅に上回る見込みだ。7銀行の不足する自己資本額は合計35億ユーロと、予想された金額より大幅に少なかった。

目次

1. 91 主要金融機関の資産査定（ストレステスト）結果.....	2
2. ドイツ：ストレステストに 14 行中 13 行が合格.....	4
3. 英国：国内 4 行は合格もストレステストの効果を疑問視する声相次ぐ.....	5
4. フランス：国内 4 行はストレステスト合格、結果疑問視の声も.....	7
5. スペイン：不合格の 5 行は再建策決定済み.....	9
6. イタリア：ストレステストは 5 行とも最低基準をクリア.....	10
7. その他の国々：ストレステスト結果発表への反響は限定的.....	11

1. 91 主要金融機関の資産査定（ストレステスト）結果

欧州銀行監督委員会（CEBS）は7月23日、91金融機関の資産査定（ストレステスト）の結果を発表した¹。2010年から11年にかけて最も悲観的なシナリオとなった場合、7銀行が健全性の目安となる中核的自己資本（Tier1）比率6%を下回るが、全体では9.2%（11年末）と大幅に上回る見込みだ。しかし、7銀行の不足する自己資本額は合計35億ユーロと、予想された金額より大幅に少なかった。

08年のリーマン・ショック後にEUがストレステストを実施するのは今回で2度目。前回（09年秋）はクロスボーダー取引を行うEU域内の26銀行が対象だったのに対して、今回はEU域内20カ国の91銀行を対象にした。EU各国の銀行部門の健全性に焦点を当てるため、91行が保有する資産を合計するとEU域内の銀行資産の約65%に相当する²。

ストレステストは、10年から11年にかけてEUのGDPが予想成長率を下回る「悲観的なシナリオ」と、同シナリオに政府債務の信認危機（ソブリンリスク）のショックが加わる「最悪シナリオ」のそれぞれについて、各銀行のTier1が保有資産の減損に耐え得る目安となる6%を維持できるかを判断材料とする。EUの予想成長率については2年間に予想値より3%ポイント程度の減少を見込み、ソブリンショック発生時には債券価格が10年5月初旬のギリシャ危機と同様に下落すると想定した。

全91銀行に対する結果をまとめると、最悪シナリオでは91銀行全体で予想される損失額は約5,659億ユーロと試算された。そのうち4,728億ユーロと259億ユーロは資産価値の減損と運用損によるもので、ソブリンショックによる影響は672億ユーロにとどまる見込みだ。また、7銀行についてはTier1の不足が指摘された（表1参照）。内訳はスペイン5行、ギリシャ1行、ドイツ1行だった。調査結果は対象銀行に対して資本増強の必要性を指摘しているが、いずれの銀行も政府主導による再建策が既にとられている。

今回の結果について、CEBSは「EUとユーロエリアの銀行部門の安定を支えるために重要な結果を持つ」と指摘した上で、「(08年以降)既に合計2,360億ユーロに上る公的資金の注入や増資による自己資本の増強が実施済み」だったことが今回の結果につながったと解説した。実際、91銀行のうち38銀行が現在何らかの公的支援を受けている。このため各国政府による公的支援の出口戦略については「時期尚早で、金融機関ごとにケース・バイ・ケースで検討する必要がある」とまとめた。

¹ 91銀行の査定結果は次のウェブサイトで見ることが可能：<http://stress-test.c-ebs.org/documents/Listofbanksv2.pdf>

² 91銀行（子会社・支店を含む）の保有資産は、EU各加盟国の銀行保有資産の5割以上を占める。自国銀行が対象にならなかった7カ国については、他国の金融機関グループの現地法人または支店が国内銀行保有資産の5割を占めている。

表1 中核的自己資本(Tier1)不足を指摘された銀行(7銀行)

銀行名	国名	基準シナリオにおけるTier1比率(%)	最悪シナリオにおけるTier1比率(%)	資本不足額(億ユーロ)
ディアダ	スペイン	6.4	3.9	10.32
カハ・スール	スペイン	6.6	4.3	2.08
ギリシャ農業銀行	ギリシャ	10.7	4.36	2.426
UNNIM	スペイン	6.6	4.5	2.70
シビカ	スペイン	7.6	4.7	4.06
ヒポ・リアルエステート	ドイツ	7.8	4.7	12.45
エスピガ	スペイン	8.2	5.6	1.27
(出所) CEBS資料よりジェトロ作成				

また、「ストレステストへの多くの銀行の参加や結果公表は市場の信頼回復への重要なステップ」(ショイブレ・ドイツ財務相)、「期待していたとおり、悪化する経済シナリオに対しても、英国の銀行が万全の備えと回復力を持っていることを示している」(英金融サービス機構)、「欧州銀行システムの信頼性維持、世界の金融システムの安定性強化の意味で重要」(ドラージェ・イタリア中央銀行総裁)など、政府関係者を中心にポジティブな見方が多かった。

しかし、今回の結果は一部の市場関係者の疑念を一掃できなかった。最大の理由は、Tier1不足を指摘された銀行の数と資本不足額が、予想より少なかったことだ。この点については、保有する債権のリスク評価の手法がまず問題となった。査定では、短期的な運用目的に保有する債券については、シナリオ結果に応じて資産価値が変動するが、満期保有資産の場合には対象外となる。これは、今回のテストではEU加盟国の債務不履行(デフォルト)は想定していないことによるが、実際にギリシャなど利率の高い公債の多くは運用目的で保有されている可能性が高いとみられている。例えばギリシャは、EUとIMFが10年から3年間にわたり総額1,100億ユーロの協調融資を決定していることに加えて、他国もユーロ圏支援として総額7,500億ユーロの支援策に合意している。しかし、協調融資は同国の財政再建の進展が前提となっており、仮にそれをクリアできなければ停止する可能性もある。

また、政府の債務残高は、GDPの115%(09年末)から150%近く(13年)まで、今後も上昇すると試算されている。仮に持ちこたえとしても、13年以降の資金調達の見通しが立たない限り、5月同様借り換えが進まずにデフォルトを迎える可能性は決して低くない。こうした状況の中で、デフォルトを想定せずに、各銀行が問題国向け融資を満期まで保有すると想定することに対し、疑問を持たれるのは致し方ないといえよう。また、個別銀行が保有する債権の詳細内容の開示は、各銀行の自主性に任せられた。

こうしたことから、今回のテスト結果については「資産査定が甘い」とする声や「問題を先送りしただけ」という見方がなされた。結果公表後には英 BBC や「フィナンシャル・タイムズ」紙、仏「レゼコー」紙など主要メディアに加えて、政府関係者からも引き続き信頼回復に努める必要性が指摘された。ドイツでは、ショイブレ財務相が「ポジティブな結果だったが、州立銀行の統合・経営強化を推進する必要がある」と発言したほか、スロベニアでは唯一対象になったノバ・リブリャンスカ銀行が基準をクリアしたにもかかわらず、「追加資本注入が必要」とする関係者の声が紹介された。

一方、今回のテストに積極的だったのがスペインだ。同国は「EU が決定した（対象銀行の合計資産が全銀行保有資産の 5 割以上を占める）基準を上回る 27 の主要銀行すべてを対象とした」（スペイン中央銀行）。その結果最大となる 5 銀行の自己資本不足が明らかになったが、「スペインはほかの EU 諸国よりも透明性が高かった」（サルガード経済財務相）ことを強調し、暗に他国の査定の不十分さを示唆した。また、政府高官の不用意な発言により、財政状況への懸念が高まったハンガリーでは対象となった 2 銀行の結果が上々だったことを受け「ハンガリーの銀行の公共的な信頼性の向上に貢献するだろう」（金融監督庁）とのコメントを発表した。

2. ドイツ：ストレステストに 14 行中 13 行が合格

連邦金融監督局とドイツ連邦銀行は、資産査定（ストレステスト）の対象となった国内 14 行について 13 行が査定に合格し、ヒポ・リアル・エステート（HRE）だけが不合格だったと発表した。今回のストレステストの対象となったドイツの銀行は 14 行。国内銀行システム総資産の 60%以上を占めた。

発表³では、①国内の銀行は頑強で（今回設定されたシナリオに対して）耐久力があることが証明された、②国内の銀行システムの平均中核的自己資本（Tier1）比率はここ 3 年間でおよそ 2%増加した、③成長率が急激に低下し、金利曲線がシフトする（債権価格が下落する）という状況下でさえ、Tier1 比率は 8.9%程度と、支払い能力が確保されている、d. 国内の銀行はリスクプレミアム上昇を伴う国債の下落シナリオにもうまく対応しており、このシナリオでの Tier1 比率は 8.5%だとし、国内の金融機関の堅実さを強調した。

不合格となった HRE については、「最も厳しいシナリオ下で Tier1 比率 6%に達しない唯一の銀行だ。ただし、HRE は既に国有化されており、資本増強の必要性は最悪のシナリオが具体化した場合にのみ生じる」とし、「債権への対応が既に進められているが、今回の査定ではこの点が考慮されなかった」とした。

³ <http://www.bundesbank.de/download/presse/presstexten/2010/20100723.stresstest.en.pdf>

結果について、ショイブレ財務相は「ストレステストに多くの銀行が参加したこと、またその結果が公表されたことは、今後の市場の信頼回復への重要なステップ。ポジティブな結果だったが、州立銀行の統合はさらに進める必要がある」とコメントした。

ツァイトラー連銀副総裁は「国内の金融機関の収支調整は進んだが、そのプロセスはまだ完了していない」と金融機関の今後の課題を強調した。各機関の Tier1 比率に対しては「各監督局の意見では、HRE 以外の銀行は資本増強の必要性はない」と述べた。

経済学者のボフィンガー氏は、より堅牢な自己資産の基盤を作り、Tier1 比率を増やすべきだと述べ、今回査定の対象となった各行の自己資本の質と量の改善の必要性に言及した。同氏はさらに、銀行間相互のつながりが拡大していることを背景に「ある金融機関の倒産が別の金融機関に連鎖することのリスクが今回の査定には含まれていない」と指摘した。

ifo 経済研究所のアベルガー氏は「ストレステストに公的支援がなくなるというシナリオが含まれていなかった」点を挙げ、米国で行われたストレステストと比較して今回の査定方法を批判している。また、財政学者カゼレル教授は「現実に起こり得る最悪シナリオは、査定で使われた最悪シナリオを大きく上回る可能性がある」と述べるとともに、「銀行単体の抵抗力は今回の査定で明らかになったが、金融システム全体の安定性は査定できていない」と語った。

ショイブレ財務相のコメントにあった州立銀行の今後について、与党キリスト教民主同盟 (CDU) のダウツェンベルク氏は「現在の難しい局面を乗り越えるためには、各州立銀行を 1 つに統合するか、貯蓄銀行と州立銀行を統合するかの 2 つの方向しかない」と述べた。また、ドイツ経済研究所 (DIW) のツィッターマン氏は「巨額の公的資金が投入されているにもかかわらず、州立銀行の経営には金融機関運営のビジネスモデルが欠けている」と指摘した。

3. 英国：国内 4 行は合格もストレステストの効果を疑問視する声相次ぐ

国内では主要 4 銀行が資産査定 (ストレステスト) の対象となったが、すべて審査を通過した⁴。金融サービス機構 (FSA) を中心に銀行資産の健全化に向けた対策が強化されてきたことから、金融関係者は今回の審査結果を冷静に受け止めている。一方、専門家や主要各紙は、審査結果が市場に与える効果に疑問を呈した。

今回のストレステストでは、バークレイズ、HSBC、ロイズ・バンキング・グループ、ロイヤル・バンク・オブ・スコットランド (RBS) の 4 行が審査対象になったが、すべて合

⁴ http://www.fsa.gov.uk/pages/About/What/International/european/lamfalussy/cebs/stress_testing/index.shtml

格した。特にパークレイズは、中核的自己資本（Tier1）比率が13.7%と、4行の中で最も高かった。

FSAはストレステストの結果が欧州銀行監督委員会（CEBS）から公表された後、「ストレステストの結果を歓迎する。期待していたとおり、ストレステストの結果は悪化する経済シナリオに対しても英国の銀行が万全の備えと回復力を保持していることを示した」との見解を発表した。国内では2008年後半の金融危機の影響を受けて、08年10月に銀行の流動性確保のため5,000億ポンド（10年7月現在で1ポンド＝約135円）規模の資金を投入、さらにFSAが09年11月、銀行に対して資産査定を義務化することを定めるなど、資産の健全化に向けた対策が強化されていた。今回のストレステストに対しては発表前から楽観論が広がっており、FSAは「今回の結果は、ここ最近、英国の銀行を強化するために行われてきた数多くの取り組みの結果だ」とした。また英国銀行協会は、「国内の銀行は既に自分たちのビジネスを再構築し、将来の財政危機に備えて資本も増強している。ストレステストの基準を英国の銀行が上回ったことには何の驚きもない」との見解を発表した。

金融関係者からは、「今回の欧州一斉のストレステストは時機を得たもので、投資家や市場の信頼を築き、財政の安定性を支えることに貢献した」（HSBC 最高経営責任者マイケル・ゲーガン氏、「インディペンデント」紙電子版）、「銀行が健全なTier1比率を維持する必要性を支持する。今回のようなテストにより、銀行の健全性に対する手掛かりを得ることができる」（RBS プレスリリース）と、今回のストレステストの実施を評価する意見が聞かれた。

一方、実際にテストを通過できなかった銀行が欧州全体の審査対象91行中7行にとどまったほか、不足する自己資本額が事前の予想を下回る35億ユーロにすぎなかったことで、ストレステストの結果が市場から銀行への不安感をぬぐい去ることができるかについては、疑問視する声が続出した。「投資家はストレステストの前提を信用しないというシグナルを送っている。彼らはテストを通過できなかった銀行の数が少ないことに驚いている」（「フィナンシャル・タイムズ」紙）、「市場は少なくとも10の銀行はテストを通過できないと予想していたが、結果は期待外れだった。今回のテストが信用収縮に直面する銀行システムの根本的な弱みに対処したとは、市場も納得していないだろう」（「ガーディアン」紙）と主要紙は伝えた。

また、主要紙は「長い間結果を待っていたストレステストは、結局厳しいテストではなかった。1週間以内にストレステストの結果は忘れ去られ、市場の関心は決算発表と経済指標に移るだろう」（金融会社エボリューションのアナリスト、ゲアリー・ジェンキンズ氏、「ガーディアン」紙）、「仮にストレステストの基準が低く設定されていたとすれば、規制

当局の間で何かしらの妥協があったように思われる」（金融会社カレンシー・ダイレクトのディーリング部長マーク・オサリバン氏、「タイムズ」紙）と審査手法に疑問を投げかける声も伝えた。

「タイムズ」紙の金融解説委員のパトリック・ホスキング氏は、今回のストレステストの信頼性が不足する原因として、次の5つを挙げた。

○欧州全体の約半分の銀行システムしか審査されていない。何百もの中小の金融機関は審査対象に含まれていない。

○ストレステストが前提とする経済シナリオが厳しくない。

○経済シナリオは11年末までしか想定しておらず、想定期間が短すぎる。

○政府債務の信認危機（ソブリンリスク）が楽観的すぎる。

○ストレステストでの重要な前提条件の解釈や適用を各国の規制当局に任せてしまっている。

英国銀行協会は「ストレステストはリスクを管理し、戦略を導くための有効なツールだ。銀行はこれまでも、規制当局との間で議論に基づいたストレステストを実施してきている。誤解や逆効果が生じないためにも、ストレステストは長期的視野に立った銀行側・規制当局側双方のアプローチが最も適切だ」と、ストレステストの実施自体を評価する一方で、今後のストレステストの手法改善を提言した。

4. フランス：国内4行はストレステスト合格、結果疑問視の声も

フランス中央銀行は、ストレステスト対象の国内4行がすべて審査を通過したと発表した⁵。同行のノワイエ総裁は「フランスの銀行は欧州の中でも最も堅固な部類に入る」と評価したが、各種報道でテスト結果を疑問視する声が出た。

フランスの銀行でストレステストの対象となったのは、BNPパリバ、ソシエテジェネラル、クレディアグリコル、ナティクシスの4行。ラガルド経済相は「フランスの銀行が楽々とテストに合格したことを歓迎する」というコメントを発表した。同相は「今回の結果は、フランスの銀行業界が全体として堅固なこと、特に、過去数ヶ月にフランスの銀行が自己資本を顕著に強化したこと、そしてソブリンリスクへのエクスポージャーが制御されていることを示すものだ」とし、「これらの結果は、リスクの予防を厳しく求めるというフランスの法規と監督モデルの適切性を立証した。これは、2008年から09年の金融危機の間にフランス当局が金融システムの安定に注力したことが実を結んだということでもある」と高く評価した。

⁵ <http://www.banque-france.fr/acp/stress-tests.htm>

また、フランス銀行連合会（FBF）のプロ会長（BNPパリバ最高経営責任者）は「フランスの銀行は、優秀な成績でテストに合格した。今回の危機を迎える前に、自己資本の拡充を終えていた。このため、危機に対して強い抵抗力を発揮した。また、過去 2 年間で利益のかなりの部分を自己資本の強化に充当してきた」と国内銀行の努力の成果を強調した。

アクサ（AXA）のエリック・シャネー主席エコノミストは「発表された銀行別の情報は、予想以上に詳細であり、ソブリンリスクへのエクスポージャーに関するデータが含まれている。アナリストは今後、自ら金融機関ごとに評価し、比較することができるだろう。まさに市場関係者が不足を訴えていたのはこうした透明性であり、開示の意義は大きい。こうした透明性が、サブプライム危機の時にあれば、危機はもっと早く終息の方向に向かっていただろう」と評価した。そして、今後の見通しとして「テストの結果は、市場にはさほどの影響は及ぼさないだろう。テストは不透明性を取り除いたが、活性化の大きな役割を果たすとは考えにくい。2 ヶ月前には、ソブリン債の危機が懸念の中心にあったが、今では投資家の懸念は景気の先行き、特に米国の景気循環に集まっている。米国や中国は、景気が減速に向かっており、これが今後の経済の行方を左右する。株価にせよ、為替にせよ、ストレステストの結果は織り込み済みではないか」と分析した。

「レゼコー」紙は「今回のテストは、重大なソブリンリスクに対する欧州の銀行の抵抗力という最も重要な問題には答えていない。ユーロ圏諸国がデフォルトに陥るリスクを仮定しなかったことで、市場の主な懸念に答え損ねたことは否めない。ただし、ソブリン債へのエクスポージャーに関する銀行ごとのデータも公表されたので、透明性の向上という点では進歩があった」とし、懸念とともに一定の評価を示した。

「ル・モンド」紙は「今回のテストには 3 点の過ちがある」と次のように指摘している。第 1 はテストの方法をめぐり、事前に関係者（投資家、アナリスト、格付け会社など）との協議がなかったこと、第 2 に 6 月時点で、7 月にテスト結果を発表すると明らかにしたが、テストに参加した 20 ヶ国の中で、情報開示の度合いという微妙な問題でコンセンサスを形成するには 1 ヶ月では短すぎ、どのような情報が発表されるかをめぐってさまざまな憶測が飛び交い、混乱した印象を与えたこと、第 3 に「銀行間の競争歪曲」という問題が忘れ去られたこと。スペインやドイツ、ギリシャなどの一部の銀行は、公的援助のおかげでテストに合格した。であるならば、公的援助を受けて財務状況が改善した銀行をそれと分かるように説明するという努力が必要だった。

5. スペイン：不合格の5行は再建策決定済み

欧州銀行監督委員会（CEBS）によるストレステストの結果、「不合格」となった7行のうち5行をスペインの貯蓄銀行が占めた。しかし、この5行はいずれも既に再建策が決まっており、大部分の銀行が「合格」したことで、政府は国際的な信頼回復に自信をみせた。

ストレステストの対象となった91行のうち27行はスペインの金融機関だ。うち普通銀行は上場している9行、貯蓄銀行（caja=カハ）は18行と全行が参加した。この27行が保有する資産を合計すると、国内金融機関の銀行資産の約95%に相当し、ほかの国に比べ、金融システム全体の状況がより反映されている。実質的にすべての銀行の情報を公開すべきだとするスペイン中央銀行や政府の意向が背景にあった。

結果は、普通銀行は9行とも合格、つまり最悪シナリオで健全性の目安となる中核的自己資本（Tier1）比率が6%を上回った。⁶他方、住宅バブル崩壊による債権リスクの高まりで統合・再編プロセスの最中にある貯蓄銀行（2010年6月22日記事参照）は、公的管理下にあるカハ・スールを含め5行が6%を下回った（表2参照）。不合格となった5行は、いずれも公的資金や民間出資の受け入れ、または合併による再建が決まっている。

スペイン国内の金融機関の約95%が参加 （資産額ベース）		最悪化シナリオ 下でのTier1	ストレステスト結 果 資本不足額	6月15日までの金融 再編基金（FROB）申 請額		
普通銀行	上場9行全てが合格		6.0～19.0%	---		
貯蓄銀行（18行全てが参加）	統合・再編の対象	公的資金支援を申請	JUPITER(カハ・マドリッド中心の統合)	6.3%	44.65	
		BASE(カハ・メディテラネオ中心の統合)	7.8%	14.93		
		DIADA(カインシャ・カタルーニャ中心の合併)	3.9%	10.32	不合格	12.50
		BREOGAN(カインシャ・ガリシア中心の合併)	7.2%		11.62	
		MARE NOSTRUM(カハ・ムルシア中心の統合)	7.0%		8～9	
		カハ・スール(別の貯蓄銀行に売却予定)	4.3%	2.08	不合格	8.00
		ESPIGA(カハ・ドゥエロ中心の合併)	5.6%	1.27	不合格	5.25
		UNNIM(カインシャ・サバデル中心の合併)	4.5%	2.70	不合格	3.80
	公的資金不要	CAIXA(他1行を吸収合併)	7.7%		---	
		BANCA CIVICA(カハ・ナバラ中心の統合)	4.7%	4.00	不合格	備考：米投資会社から4.5億ユーロの出資を予定
		カハソル(他1行を吸収合併)	6.0%		---	
		ウニカハ(他1行を吸収合併)	9.0%		---	
	統合・再編せず	その他6行(独立維持)		6.2～10.6%	---	
合計			20.37	110～115(注2)		

⁶ http://www.bde.es/prensa/test_cebs/resultados_cebse.htm

今回の結果について、国内ではポジティブな見方が強い。中銀は「事実上すべての金融機関が参加したのはスペインのみ。また、ほかの国よりも厳しく、まず起こり得ない条件を想定した悪化シナリオにもかかわらず、大部分の銀行が合格した。そうした意味で、ストレステストは国内の金融セクターの健全性を再認識し、透明性を示す良い機会になった」（23日付プレスリリース）と評価している。フェルナンデス・オルドニェス中銀総裁は「最悪シナリオ下での資本不足額（合計約20億ユーロ）は、08年に欧州の金融機関に注入された260億ユーロと比べると取るに足らない金額だ」と述べた。

政府も「スペインについてのストレステストはほかのEU諸国よりも透明性が高い」「再編プロセスが適正に機能しているおかげで多くの貯蓄銀行が合格した」（サルガード経済財務相）とみている。国際金融市場でスペインの信用不安が根強い中、中銀や政府は情報をできるだけ開示し、金融システム全体への不安を払しょくしようとしている。今回のストレステストはその好機とみられ、スペインは参加銀行数が最も多かった。

2大メガバンク（普通銀行）のサンタンデール銀行とBBVA銀行の最悪シナリオ下でのTier1比率は、それぞれ10.0%、9.3%と好成績だった。サンタンデール銀行のボティン総裁は「多地域でのリテールに特化したサンタンデール銀行のビジネスモデルの成功が再確認された」と語った。またBBVA銀行は「不況下でも収益を生むビジネスモデルがBBVAの強みだ」としている。

その一方、6%すれすれでストレステストに合格した銀行も多かった。最悪シナリオ下でTier1比率6.0~6.5%が6行あり、最終的にはこれらの銀行も公的資金による支援を申請する可能性も残る。

6. イタリア：ストレステストは5行とも最低基準をクリア

イタリア銀行（中央銀行）は、国内の5銀行に対するストレステスト（資産査定）の結果について、いずれも現状で緊急の資本増強などの措置は必要ないと発表した⁷。国内では予想どおりの結果と受け止められた。資産査定後の各行の中核的自己資本（Tier1）比率は、インテザ・サンパオロが8.2%、ユニクレディトが7.8%、バンコ・ポポラーレが7.0%、UBIが6.8%、モンテ・デイ・パスキ・ディ・シエナが6.2%で、いずれも2011年末までに想定される景気悪化の影響に耐え得る最低基準6%をクリアした。

イタリア銀行はこの結果を受けて、「（各行が）深刻な経済低迷の影響に耐え得る能力があることを証明した」と、国内銀行の健全性をあらためて強調した。

最も悲観的なシナリオを想定した査定で欧州銀行のTier1比率を比較すると、インテ

⁷ http://www.bancaditalia.it/vigilanza/stress_test;internal&action=_setlanguage.action?LANGUAGE=en

ザ・サンパオロが09年末時点（全91行）の78位から47位になるなど全体的に順位を押し上げた。しかし、イタリア銀行は「国内大手行の資本比率は基準値を大幅に上回るものの、5行平均で見ればほかの国の大手行に比べてまだ低い」とした。

同行はこの要因の1つとして、イタリアではほかの欧州主要国と異なり、これらの銀行に対して金融危機後に大規模な公的資本注入を行っていないことを挙げている。さらに「国内の銀行は従来型の金融仲介業に重点を置いているため、ほかの国の銀行に比べて財務レバレッジの低さが際立っている」とも分析した。

PIIGS（ポルトガル、イタリア、アイルランド、ギリシャ、スペイン）のうち、イタリアを除く4カ国に対する国債保有状況は、5行合計で36億ユーロだった。このうち9割近くを上位2行が占めており、インテザ・サンパオロのギリシャ向けが8億2,800万ユーロ、スペイン向けが5億5,600万ユーロで、ユニクレディットは8億ユーロと5億3,600万ユーロだった。一方で、イタリア国債については合計で1,447億ユーロを保有している。

また、各方面で議論を呼んでいる今回の資産査定方法について、イタリア銀行は「精密で厳格だった」として、手法が適正だったとの見解を示した。

イタリア銀行のドラーギ総裁は、発表前から国内銀行の資本の健全性に自信を示していたこともあり、「(テストの結果は) 欧州銀行システムの信頼性の維持と、世界の金融システムの安定性強化の意味でも、重要な要素だ」（「24オーレ」紙電子版）と語った。

トレモンティ経済財政相は国営放送RAIのインタビューで、「関心を持たれないのもたまには良いものだ。(テスト結果が) 欧州平均に届いたおかげで、イタリアは話題の中心にならずに済んだ」と述べ、「イタリアの銀行システムだけでなくイタリアという国の堅実性を示すことができ、とても素晴らしい結果だった」と結んだ。

また経済財政省は、査定結果からは差し当たって緊急性はないものの、必要な場合には、政府の公的資金に関する支援策を再度検討する用意があることを明らかにした。

7. その他の国々：ストレステスト結果発表への反響は限定的

欧州銀行監督委員会（CEBS）が発表したストレステストの結果について、自国の銀行に問題がなかったベルギー、オーストリアや、自国資本の銀行が審査対象にならなかったチェコなどでの報道は限定的だった。

ベルギーの主要メディアの反応は「ベルギー系銀行、テストに合格」（「レコー」紙）、「KBCとデクシア銀行が（審査に）パス」（「ル・ソワール」紙）など、自国が関係するデクシア、KBCの両行が特段問題なく審査をパスしたことが中心だった。08年のリーマン・ショック

後に自国の複数の金融グループが経営難に直面したこともあり、今回の結果次第で両行に対する信頼問題が再燃する恐れがあった。結果的に、レンデルス財務相が「見事に切り抜けた」と総括するように、デクシア、KBCとも「最も悲観的なシナリオ」での中核的自己資本（Tier1）比率が10.9%、9.4%と基準値を大幅に上回ったことで、政府は特段新たな対応はとらない見込みだ。

オーストリアでは、エアステ銀行、ライフアイゼン銀行の2行が対象になった。「最も悲観的なシナリオ」でのTier1比率が8.0%、7.8%とまずまずの数値だったことから、メディアでは銀行関係者の満足感が報じられるなど自国金融機関の結果が中心だった。リーマン・ショック後、国内ではヒポ・グループ・アルペ・アドリア銀行が破綻し、ほかの主要行も公的資金の注入や中・東欧向け融資の貸倒引当金の積み増しなどの対応をみせていたため、今回のストレステストの結果が注目されていた。

チェコでは、主要行の1つで経営状態が不安視されていたチェコスロバク商業銀行（CSOB）の親会社であるベルギーのKBCのテスト結果が注目されていたが、同行はテストを無事パスした。全体としてテスト結果に関する報道はあまり多くなかった。